

American Academy of Orthopaedic Surgeons 編
Atlas of Orthoses and Assistive Devices, 3rd ed
加倉井周一（東大病院リハビリテーション部）

アメリカ整形外科学会の編集で定評のある本書（初版 1975 年，2 版 1985 年）が 12 年振りに改定された。内容は，1）装具の基礎（処方，材料と強度，正常歩行と異常歩行，脊椎/上肢/手/足部のバイオメカニクス），2）脊椎装具，上肢装具，下肢装具および靴の基本，材料，部品，3）脊椎装具（疼痛用装具，外傷用および術後装具，脊柱変形に対する装具），4）上肢装具（頭部外傷，頸髄損傷，火傷，関節炎，末梢神経麻痺，腕神経叢麻痺，機能的上肢骨折装具，スポーツ損傷，手根管症候群/テニス肘など累積外傷用装具），5）下肢装具（頭部外傷，脊髄損傷，機能的下肢骨折装具，関節置換術後の装具，スポーツ損傷，神経原性/血行障害に対する装具，ポストポリオ症候群，足部装具），6）小児用装具（足部/下腿変形用，脊髄損傷，股関節疾患，筋疾患，脳性麻痺，二分脊椎），7）各種補助具（つえ，クラッチ，歩行器，座位保持装置，車椅子，レクリエーション用/スポーツ用/運転用/日常生活用補助具，電動補助具およびリハビリテーション・ロボット）に分かれ，本文 677 ページという分厚い書籍である。初版と 2 版の題名は“Atlas of orthotics”で，副題として「バイオメカニクスの理論と応用」がついていたが，20 数年間経って，装具はバイオメカニクスの理論に基づいているという考えがすっかり定着したためか，今回は削除されている。

2 版に比べ今回の主な変更点は ① Perry J（歩行解析），Mann RA（足部のバイオメカニクス）を除

き，執筆者のほとんど全員の交替，② 脳血管障害が全く触れられていないこと（CVA の装具は整形外科医の手をはなれてリハビリテーション医に廻るようになったためであろう），③ 頭部外傷，脊髄損傷，骨折，関節炎など整形外科的疾患の重視，④ 火傷，累積外傷用装具），関節置換術後の装具，ポストポリオ症候群などの項目の新設，⑤ 時代の趨勢による装具の内容の変化（例えば脊椎側彎症ではミルオーキー装具の頁が減少し，アンダーアームブレースの頁が増えている。また，脳性麻痺用装具の項目で，わが国でも論議されている痙性抑制効果については十分実証されていないと批判的である），⑥ 各種補助具の項目で，今回初めて 7 種類のリハビリテーション・ロボットが紹介されている。

わが国でも国立身体障害者リハビリテーションセンターでの補装具適合判定医師研修会のサブテキストとして「義肢装具のチェックポイント」が発行されているが，本書の内容には比べるすべもない。装具の関心のある読者は是非座右の書として一読されることをお勧めしたい。

それにしても気にかかることは，本書引用文献 1,246 のうち，日本人のものはわずか 22（1.8%）である。国際化社会にあつて，もっとわれわれも頑張る必要がありそうである。

（A 4 版 頁 677 定価（20,640 円＋税）1997 CB Mosby 刊）